



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/03/04

## あっさり黙示録 #55

### 地上再臨の前触れ—天国のハレルヤコーラス—

#### 黙示録 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録** 55 回目です。

いよいよ**艱難時代**のクライマックス、**黙示録 19 章**に入ります。

**19 章後半**には、地上再臨のキリストが反キリスト連合軍を壊滅させる、いわゆる**ハルマゲドン戦争／最終戦争**が出て来ます。非常に恐ろしく、厳粛な箇所ですね。

キリストの地上再臨の直前に天国で起こる出来事があるんですが、それについて書いてあるのが **19 章前半**です。いったい何が起こるのでしょうか。

4 つのハレルヤコーラスの登場なんですね。

#### 黙示録 19 章

**1** その後 (のち)、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。」

大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。」

ハレルヤはヘブライ語で、ハレルは賛美する・ほめたたえる。

ヤはヤーウエのヤ。神のお名前。

なので、ハレルヤは神をほめたたえよ。神をほめたたえます。

神に対する礼拝の言葉・賛美の言葉です。そのハレルヤを、大群衆が大きな声で合唱している。そのように神をほめたたえる理由は何でしょうか。

**2b** 神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」

淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばいたので「ハレルヤ」と言っているのです。

大淫婦は既に **17 章**で解説したように**世界統一宗教**です。

7 年間の**艱難時代**はどの部分をとっても**艱難**ですが、前半と後半で**艱難**を起こす主体者が変わります。**艱難時代前半**に地上の人々（特に**信仰者たち**）を苦しめる主体者は**世界統一宗教**。後半は**反キリストの政府**です。

ここは、**艱難時代前半 3 年半の間**、キリストを信じた人たちを大弾圧した**世界統一宗教**が遂に裁かれた、ということのを思い起こして**賛美**している場面なんですね。

**世界統一宗教**は、地上のありとあらゆる宗教を一つにまとめ上げて成立している宗教ですが、その中核は**キリストの教会**です。

もうちょっと正確に言うと、携拳された後も地上に残っている**キリストの教会**。

キリスト教会の看板を出しているが、その内実はキリストを否定する教会。  
名ばかりの教会。偽クリスチャンたちの集団。  
この大きな組織が中核となって、世界中の宗教を一つにまとめ上げるんですね。

キリストの教会の歴史、これを教会史と言いますが、これを見ていくと、実に意外なことが出て来るんです。それは、地上のクリスチャンを最も迫害したのは教会だったということ。この教会は名ばかりの教会です。  
政治権力者たちが教会の内部に入り込み、教会を内部からコントロールし、聖書ではなく政治的権力や自分の野心に基いて教会を利用し、真の信者たちを大弾圧する。こういうことが歴史の中で繰り返されて来ました。実は今でもあるんです。

あっさり黙示録では、今までこのことを飛ばして来ました。  
それについて、私は包み隠すことなく説明したいと思っているのですが、実は**あっさり黙示録**は黙示録の頭、**1章**から順にやってないんです。  
艱難時代の預言が語られているところ、**黙示録 6章**からスタートしたんです。  
**1章から 5章**はパーンと飛ばして、いきなり艱難時代の解説で始まったのが、この**あっさり黙示録**なんですよ。今となつては、ちとまずかったかなと。

特に**2章**と**3章**では、キリストの教会史が預言されていました。  
それで、**あっさり黙示録**を**22章**までやって全部終わった後で、第2部として飛ばして来た**1章**から**5章**の解説をしたいと思います。  
それを全部合体させたら、黙示録全体を網羅したことになるんですね。

## 黙示録 19章

**1** その後（のち）、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。神のさばきは真実で正しいからである。

なぜ大声で神をほめたたえているのでしょうか。救いと栄光と力は私たちの神のもの。3つのポイントでほめたたえてるんです。

「救いは神のもの。栄光は神のもの。力は神のもの。神はそれを実行された。だからこそ、私たちは神をほめたたえずにはおれないんです！」

なぜ神をほめたたえずにはおれないのか。これを少しずつ解説しましょう。

### ①救いは私たちの神のものだから

ここの救いは完全な回復を伴う救いです。

犯罪があるとやがて犯人が逮捕され、裁判で有罪判決を受け、罰を受け、見ている私たちは「ああ、これで一件落着」と思いがちです。

直接関係のない第三者が見た時、「悪が裁かれて良かった良かった」で終わってしまうように思いますが、しかし、その悪の被害者はどうでしょう。

被害者の中には、その犯罪者集団に襲われて、肉体に大変な後遺症を負っている方々もいます。

それまでは普通に会社員として働くことが出来ていたのに、その後遺症のために社会で働くことが出来ない。仕事を辞めざるを得なくなってしまった。  
しかし、後遺症の治療には莫大な費用が掛かる。犯人に請求しても支払い能力がない。その場合、どうなるでしょう。やられっぱなしなんですよ。

確かに、犯罪者は罰を受けているでしょう。しかし、被害者は償いの部分を受け取ることが出来ないままです。  
なぜ人生にこんな不条理な、不当な事が起こってしまったのか、という恨み節がどうしても出て来ますよね。或いは心に傷が残る。PTSDになってしまう。  
そういったことがあるでしょう。

ところが天国では、世界統一宗教によって不当に命を奪われた人たちの口から出て来るのは、恨み節ではなくてハレルヤという喜びの歌なんですね。  
つまり天国とは、この地上でどんなに酷い目に遭った人でも PTSD が完全に癒されている世界。喜びしかない世界。それが天国です。  
そんな世界を望んでいるんじゃないですか。行けるんですよ。キリストによって。

## ② 栄光は私たちの神のものだから

神の裁きを見ることによって初めて、神の正義の栄光を目の当たりにしたんです。  
私は6月に1か月間、アメリカ大陸を横断することになっていますが、5年前にも西海岸のたくさんの集会を訪問させていただきました。  
特に、カリフォルニア州では日本人が大勢いてビックリしました。  
日本人、こんなにたくさん住んでたんか思って、びっくり仰天したんです。

その時、アメリカで弁護士として活動している日本人クリスチャンが来られて、「いつもYouTube見てますよ」と。とても有意義な時間を過ごしました。  
それで、私は1つ質問したんですね。

実は、アメリカの刑事事件のほとんどは司法取引で解決しているんです。  
犯罪者（被告人）が検察に「私がやりました」ということで、重要な情報を全部言うんです。捜査に協力する。すると、検察は裁判官に「こいつ、捜査に協力したんで、刑を軽くしてやってください」とお願いするんですよ。  
つまり、自分がやったことを取引材料にして、本来受けるはずだった刑罰よりもはるかに軽い刑になるというのが司法取引です。

これのメリットは、難解な事件の解明が早く済む。裁判がスピード感をもってすぐに解決する。お蔵入りになって解明できないままよりもいいじゃないか。  
それで、刑事事件のほとんどが司法取引で解決しているのがアメリカなんです。

それ分かりますよ。その方が効率いいって。だけど私ね、なんかね、釈然としない。アメリカの人だって、釈然としないんじゃないですか。  
だって、犯罪を犯した人は悪い事やってもそれに見合う刑罰を受けず、悪者仲間を裏切って自分だけ良い目を見るというのは、なんか正当な裁きがないじゃないかと。

特に、被害者はどう思っているんだろう。

「ようこんなのを、皆さん受け入れてますねえ」と申し上げた時、「おそらくアメリカの一般の人たちの意識の中に、地上の裁判が裁判のすべてではないという概念があるからではないでしょうか」と言われたんです。

「地上の裁判では取引によって、本来受けるべきよりも軽い罰で免れるということがある。だけど、神の審判では司法取引はない。神の最後の審判の前に立った時、賄賂も自供ももう遅い。何も無い。たとえこの地上でそのようにして免れることがあっても、本人が悔い改めてキリストを信じない限り、その人は神の前で責任追及を逃れることができない。ので、“この地上では、1つの手続きとしてそれを認めよう”ということではありませんか」という説明を聞いて、初めて腑に落ちました。

最後の審判がある。その審判は免れることができないからこそ栄光の審判なのです。だから、**栄光は私たちの神のもの**なんですね。

### ③**力は私たちの神のものだから**

この地上では、独裁者や権力者であるがゆえに、どんな不法を行っても罰を免れている人たちがいますよ。私たちの国の周囲にも、そんな独裁者 なんぼでもおるじゃないですか。しかし、どんな力も神の力の前には吹き飛んでしまうんです。

その力が地上で明確に吹き飛ぶ瞬間がキリストの地上再臨ですよ。

**力は神のもの**。どんな強大な悪も神は裁くことができる。

なので「神よ、あなたをほめたたえます。」

地上で不当な苦しみや仕打ちを受けた人であればあるほど、キリストの地上再臨を待ち望むことでしょ。

キリストの地上再臨を怯えながら待つ者なのか。

それとも、楽しみに待つことができる者なのか。

天でそれを迎えるにしても、楽しみに待つことができる立場に入るように、ぜひお勧めします。

さて、キリストの地上再臨の直前に4つのハレルヤがありました。

今日1つ目が終わったんですね。次回、2つ目と3つ目のハレルヤコーラスを説明しますので、よろしければお付き合いください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

---

☆引用 ; 日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017